

7章 鉄骨工事

8節 錆止め塗装

7. 8. 1 一般事項

- (1) この節は、鉄骨の錆止め塗装に適用する。
- (2) この節に規定する事項以外は、18章[塗装工事]による。

7. 8. 2 塗装の範囲

- (1) 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲は、特記による。また、耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲は、特記により、特記がなければ、次の部分以外の範囲を塗装する。
 - (ア) コンクリートに密着する部分及び埋め込まれる部分
 - (イ) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
 - (ウ) 密閉される閉鎖形断面の内面
 - (エ) ピン、ローラー等密着する部分及び回転又は摺動面で削り仕上げした部分
 - (オ) 組立によって肌合せとなる部分
- (2) 工事現場溶接を行う部分でも、溶接に支障となる錆が発生するおそれのある場合は、溶接に支障のない適切な防錆処置を講ずる。
- (3) 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ 100 mm程度の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲の塗装は、超音波探傷試験の完了後に行う。

7. 8. 3 工事現場塗装

18. 3. 3[錆止め塗料塗り] (2) による錆止め塗料塗りの工事現場塗装は、次による。

- (ア) 工事現場で組み立てた接合部の素地ごしらは、表18. 2. 2によるC種とし、工場塗装と同種の錆止め塗料により塗装する。
- (イ) 現場搬入後に塗膜が損傷した部分は、活膜を残して除去し、錆止め塗料で補修する。
- (ウ) 錆が生じた部分は、旧塗膜を除去し、表18. 2. 2によるC種の素地ごしらえを行った上、錆止め塗料で補修する。

7. 8. 4 塗料種別

- (1) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別は、特記による。特記がなければ、表18. 3. 1[鉄鋼面錆止め塗料の種別]のA種とする。
- (2) 耐火被覆材が接着する面に塗装する場合の錆止め塗料の種別は、特記による。

15章 左官工事

6節 仕上塗材仕上げ

15.6.1 一般事項

この節は、建築用仕上塗材を用いる内外装の仕上工事に適用する。

15.6.2 材 料

仕上塗材

仕上塗材は、JIS A 6909（建築用仕上塗材）による。ただし、内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量は、特記による。特記がなければ、F☆☆☆☆とする。

仕上塗材は、表15.6.1により、種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法は特記による。

仕上塗材の製造所において指定された色、つや等に調合し、有効期間を経過したものは使用しない。

なお、下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所の製品とする。

内装薄塗材及び内装厚塗材で吸放湿性を有する塗材を用いる場合は、JIS A 6909に基づく[調湿形]の表示のあるものとし、適用は特記による。

内装薄塗材Wをコンクリート、セメントモルタル等のアルカリ性の下地に適用する場合は、JIS A 6909に基づく[耐アルカリ性試験合格]の表示のあるものを用いる。

内装薄塗材Wは、JIS A 6909に基づく[かび抵抗性]の表示のあるものを用いる。

複層仕上塗材の耐候性は、特記による。特記がなければ、耐候形3種とする。

複層仕上塗材の上塗材の種類は表15.6.2により、種類は特記による。特記がなければ、水系アクリルのつやありとする。

増塗材は、主材基層塗りに用いる材料とする。

設計図書に定められた防火材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

表15.6.1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法（その1）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法 (注)5	所要量(kg/m ²) (注)6	塗り回数
薄付け仕上塗材	外装薄塗材 Si	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 1.0以上	1 2
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 0.6 以上	1 1～2(注)4.
	可とう形 外装薄塗材 Si	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材 0.1 以上 主 材 1.2 以上	1 2
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り	下塗材 0.1 以上 主 材 1.2 以上	1 1～2(注)4.
	外装薄塗材 E	砂壁状 ゆず肌状	吹付け	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 1.0 以上	1 2
		平たん状 凹凸状	こて塗り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 0.6 以上	1 1～2(注)4.
		ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗り		
		着色骨材砂壁状	吹付け	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 1.5 以上	1 2

次ページへ続く

			こ て 塗 り	下塗材(注) 1. 0.1 以 上 主 材 0.9 以上	1 1～2(注)4.
可とう形 外装薄塗材 E	砂壁状 ゆず肌状	吹付け		下塗材 0.1 以上 主 材 1.0 以上	1 2
	平たん状 凹凸状	こ て 塗 り		主 材 1.2 以上	前ページから続く 1～2(注)4.
	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗 り			
防水形 外装薄塗材 E	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗 り		下塗材 0.1 以上 増塗材 0.7 以上 主材基層 1.0 以 上	1 1 1～2(注)4 1
	凹凸状	吹付け		主材模様0.4 以上	
外装薄塗材 S	砂壁状	吹付け		下塗材 0.1 以上 主 材 1.0 以上	1 1
内装薄塗材 C 内装薄塗材 L	凹凸状	吹付け		下塗材(注) 1. 0.1 以 上 主 材 0.8 以上	1 1～2(注)4
	平たん状 凹凸状	こ て 塗 り			
	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗 り			
内装薄塗材 Si 内装薄塗材 E	砂壁状じゅらく ゆず肌状	吹付け		下塗材(注) 1. 0.1 以 上 主 材 0.6 以上	1 1～2(注)4
	平たん状 凹凸状	こ て 塗 り			
	ゆず肌状 さざ波状	ローラー塗 り			
内装薄塗材 W	京壁状じゅらく ゆず肌状	吹付け		下塗材(注) 1. 0.1 以 上 主 材 0.3 以上	1 1～2(注)4
	平たん状 凹凸状	こ て 塗 り		下塗材(注) 1. 0.1 以 上 主 材 0.2 以上	1 1～2(注)4

表 15. 6. 1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法（その2）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	所要量(kg/m ²)	塗り回数
厚付け仕上塗材	外装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層3.0 以上 主材模様 2.0 以上 上塗材(注)3. 0.3 以上	1 1 1 2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こ て 塗 り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 5.0 以上 上塗材(注)3. 0.3 以上	1 1~2(注)4 2
	外装厚塗材 Si 外装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層 1.5 以上 主材模様1.5 以上 上塗材(注)2. 0.3 以上	1 1 1 2
		平たん状 凹凸状 ひき起こし	こ て 塗 り ローラー塗 り	下塗材 0.1 以上 主 材 3.0 以上 上塗材(注)2. 0.3 以上	1 1~2(注)4 2
	内装厚塗材 C	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層3.0 以上 主材模様2.0 以上	1 1 1
		平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こ て 塗 り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 3.5 以上	1 1~2(注)4
	内装厚塗材 L	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こ て 塗 り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 2.5 以上	1 1~2(注)4
	内装厚塗材 G	平たん状 凹凸状 ひき起こし かき落とし	こ て 塗 り	下塗材(注)1. 0.1 以上 主 材 2.5 以上	1 1~2(注)4
	内装厚塗材 Si 内装厚塗材 E	吹放し 凸部処理	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層1.5 以上 主材模様 1.5 以上	1 1 1
		平たん状 凹凸状 ひき起こし	こ て 塗 り ローラー塗 り	下塗材 0.1 以上 主 材 3.0 以上	1 1~2(注)4

表 15. 6. 1 仕上塗材の種類（呼び名）、仕上げの形状及び工法（その 3）

種類	呼び名	仕上げの形状	工法	所要量(kg/m ²)	塗り回数
複層仕上塗材 (注)7	複層塗材 CE 複層塗材 Si 複層塗材 E 複層塗材 RE	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層0.7 以上 主材模様0.8 以上 上塗材 0.25 以上	1 1 1 2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材 0.1 以上 主 材 1.0 以上 上塗材 0.25 以上	1 1～2(注)4 2
	可とう形 複層塗材 CE	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1 以上 主材基層1.0 以上 主材模様0.5 以上 上塗材 0.25 以上	1 1～2(注)4 1 2
		ゆず肌状	ローラー塗り	下塗材 0.1 以上 主 材 1.0 以上 上塗材 0.25 以上	1 1～2(注)4 2
	防水形複層塗材 CE 防水形複層塗材 E 防水形複層塗材 RE	凸部処理 凹凸状	吹付け	下塗材 0.1 以上 増塗材 0.9 以上	1 1
		ゆず肌状	ローラー塗り	主材基層1.7 以上	2
				主材模様0.9 以上 上塗材 0.25 以上	1 2
	吹付用軽量塗材	砂壁状	吹付け	下塗材 0.1 以上 主 材 厚 5mm以上	1 1～2(注)4
軽量骨材仕上塗材	こて塗用軽量塗材	平たん状	こて塗り	下塗材 0.1 以上 主 材 厚 3mm以上	1 1～2(注)4

- (注) 1. 下塗材を省略又は専用の下地調整材を用いる場合は、仕上塗材の製造所の指定による。
2. 上塗材の適用は特記による。
3. セメントスタッコ以外の塗材の場合は、特記による。
4. 塗り回数は、仕上塗材の製造所の指定による。
5. 工法欄の吹付け、ローラー塗り及びこて塗りは、主材の塗付けに適用する。
6. 所要量は、被仕上塗材仕上げ面単位面積当たりの仕上塗材(希釈する前)の使用質量とする。
なお、表の所要量は、2回塗りの場合、2回分の使用質量を示す。
7. 複層仕上塗材の上塗りが、メタリックの場合の所要量及び塗り回数は、15. 6. 6 (13) (エ) (a) による。

表 15. 6. 2 複層仕上塗材の上塗材の種類

樹脂 外観 溶媒	アクリル系			シリカ系	ポリウレタン系			アクリルシリコン系			ふっ素系		
	つやあり	つやなし	メタリック	つやなし	つやあり	つやなし	メタリック	つやあり	つやなし	メタリック	つやあり	つやなし	メタリック
溶剤系	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
弱溶剤系	○	○	—	—	○	○	—	○	○	—	○	○	—
水系	○	○	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○	—

凡例 ○印：選択可能 —印：選択不可

(注) つやなし及びメタリックは、可とう形複層塗材及び防水形複層塗材には適用しない。

- (3) 下地調整塗材は、JIS A 6916（建築用下地調整塗材）による。
(4) 水は、15. 3. 2 (2) による。
(5) (1) から (3) まで以外の材料は、仕上塗材の製造所の指定する製品とする。

15.6.3 施工一般

(6) 15.1.3の見本塗板は、所要量又は塗厚が工程ごとに確認できるものとする。
 仕上げ工程の放置時間等は、18.1.4[施工一般] (8) による。
 仕上げ場所の気温が低い場合は、18.1.6[施工管理] (1) による。
 外部の仕上げ塗りは、降雨、多湿等により結露のおそれのある場合及び強風時には、原則として、行わない。
 仕上げに溶剤を用いる場合は、換気をよくして、溶剤による中毒を起こさないようにする。
 工程ごとの所要量等の確認を、15.6.7により行う。
 シーリング面に仕上塗材仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化した後に行うものとし、塗重ね適合性を確認し、必要な処理を行う。

15.6.4 下地処理

(7) コンクリート、モルタル、プラスター下地等で、ひび割れがある場合は、必要に応じてU字形にはつり、仕上げに支障のないモルタル等で充填し、14日程度放置する。ただし、気象条件等によりモルタル等の付着が確保できる場合には、放置期間を短縮することができる。
 外壁のコンクリート下地等で漏水のおそれのあるひび割れは、U字形にはつり、シーリング材を充填する。なお、シーリング材は仕上げに支障のないものとする。
 モルタル下地の仕上げは表15.6.3により、仕上塗材の種類に応じた○印の仕上げとする。

表15.6.3 仕上塗材の種類に応じたモルタル下地の仕上げ

仕上塗材の種類 (呼び名)	モルタル下地の仕上げ			備考
	はけ引き	金ごて	木ごて	
外装薄塗材 Si、外装薄塗材 E、外装薄塗材 S、 内装薄塗材 Si、内装薄塗材 E、内装薄塗材 W、 外装厚塗材 Si、外装厚塗材 E、内装厚塗材 Si、 内装厚塗材 E、複層塗材 CE、複層塗材 Si、 複層塗材 E、軽量骨材仕上塗材	○	○	○	薄塗材の場合は、 金ごて又は木ごて
内装薄塗材 C、内装薄塗材 L、外装厚塗材 C、 内装厚塗材 C、内装厚塗材 L、内装厚塗材 G	○	—	○	薄塗材の場合は、 木ごて
可とう形外装薄塗材 Si、可とう形外装薄塗材 E、 防水形外装薄塗材 E、可とう形複層塗材 CE、 複層塗材 RE、 防水形複層塗材 CE、防水形複層塗材 E、 防水形複層塗材 RE	—	○	—	—

A L Cパネル下地の場合は、次による。
 内壁目地部の形状は、特記による。特記がなければ、V形目地付きとする。
 A L Cパネル面の欠け、穴等は、A L Cパネルの製造所の指定する補修用材料（既調合のもの）で平滑にする。
 押出成形セメント板下地の場合は、押出成形セメント板面の欠け、表面の傷等を押出成形セメント板の製造所の指定する補修材料で平滑にする。

15.6.5 下地調整

(8) コンクリート面の下地調整は、次による。
 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
 下地面の清掃を行う。
 下地調整塗材 C-2 を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面及び厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 C-1 を平滑に塗り付けることができる。

下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 CM-2 を平滑に塗り付ける。

モルタル、プラスター及びプレキャストコンクリートの下地調整は、次による。

下地面の清掃を行う。

合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、仕上塗材の下塗材で代用できる場合は、省略することができる。

せっこうボード面及びその他のボード面下地調整は、次による。

表18. 2. 7 [せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ] のB種とする。

合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗りつける。

ALC パネル面の下地調整は、次による。

下地面の清掃を行う。

合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし下地調整塗材 E で代用する場合は、省略することができる。

屋外は、仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材 C-1 又は下地調整塗材 E を全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材 S 仕上げの場合は、下地調整塗材 C-2 を全面に塗り付けて、平滑にする。

押出成形セメント板面の下地調整は、次による。

下地面の清掃を行う。

日本建築学会材料規格 JASS 18 M-201[反応形合成樹脂シーラーおよび弱溶剤形反応硬化形合成樹脂シーラー]に基づく塗料を全面に塗り付ける。

なお、仕上塗材の製造所の仕様により、下塗材を JASS 18 M-201 に基づく塗料で、代用とすることができる。

日本ペイント 下地調整材一覧 (JIS A 6916.他)

C-1	ニッペ 1 材フィラー#200
C-2	ニッペ 1 材カチオンフィラー
CM-2	—
E	ニッペ アンダーフィラーS 又はニッペ アンダーフィラーAL
合成樹脂エマルジョンシーラー (JIS K5663)	ニッペ 水性透明シーラー、ニッペ 水性ホワイートシーラー ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイート)、ニッペ 水性シミ止めシーラー II
JASS18 M-201	ニッペ ファイン浸透シーラー (透明)、ニッペ 浸透性シーラー (新)、 ニッペ ファイン浸透造膜シーラー、ニッペ ファインパーフェクトシーラー (透明)

※JIS 取得品ではありません。

15. 6. 6 工 法

(9) 外装薄塗材 Si 及び可とう形外装薄塗材 Si は、次による。

材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。ただし、溶剤系の下塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。

下塗りは、だれ、塗残しのないように均一に塗り付ける。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、仕上塗材の製造所の指定の吹付け条件により吹き付ける。

(b) ローラー塗りの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のローラーを用いて塗り付ける。

外装薄塗材 E 及び可とう形外装薄塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(1) (7) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合、(1) (ウ) (a) による。

(b) ローラー塗りの場合、(1) (ウ) (b) による。

(c) こて塗りの場合、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、所定のこてを用いて塗り付ける。

防水形外装薄塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(1) (7) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

増塗りは、出隅、入隅、目地部、開口部回り等に、はけ又はローラーにより、端部に段差のないように塗り付ける。

主材塗りは、次による。

(a) 基層塗りは、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように均一に塗り付ける。

(b) 模様塗りは、次による。

①吹付けの場合、(1) (ウ) (a) による。

②ローラー塗りの場合、(1) (ウ) (b) による。

外装薄塗材 S は、次による。

材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(1) (ウ) (a) による。

内装薄塗材 C 及び内装薄塗材 L は、次による。

材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。なお、練混ぜ量は、仕上塗材の製造所の指定する可使時間以内に使い終わる量とする。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合、(1) (ウ) (a) による。

(b) ローラー塗りの場合、(1) (ウ) (b) による。

(c) こて塗りの場合、(2) (ウ) (c) による。

内装薄塗材 Si 及び内装薄塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する水の量で均一になるように行う。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(5) (ウ) による。

内装薄塗材 W は、次による。

材料の練混ぜは、(6) (7) による。ただし、合成樹脂エマルジョンを使用する場合は、仕上塗材製造所の仕様による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合、(5) (ウ) (a) による。

(b) こて塗りの場合、(2) (ウ) (c) による。

外装厚塗材 C は、次による。

材料の練混ぜは、(5) (7) による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合は、次による。

①基層塗りと模様塗りの2回とする。

②基層塗りは、だれ、ピンホール、及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。

③模様塗りは、(1) (ウ) (a) による。

④凸部処理は、模様塗りの後に、見本塗板と同様の模様になるように、こて又はローラーにより押さえる。

(b) こて塗りの場合、(2) (ウ) (c) による。

上塗材を用いる場合は、上塗りは、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に、はけ、ローラー又はスプレーガンにより塗り付ける。

外装厚塗材 Si 及び外装厚塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(6) (7) による。ただし、溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一になるように行う。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合、(8) (ウ) (a) による。

(b) ローラー塗りの場合、(1) (ウ) (b) による。

(c) こて塗りの場合、(2) (ウ) (c) による。

上塗りは、(8) (エ) による。

内装厚塗材 C は、次による。

材料の練混ぜは、(5) (7) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(8) (ウ) による。

内装厚塗材 L 及び内装厚塗材 G は、次による。

材料の練混ぜは、(5) (7) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(2) (ウ) (c) による。

内装厚塗材 Si 及び内装厚塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(6) (7) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(9) (ウ) による。

複層塗材 CE 及び複層塗材 RE は、次による。

材料の練混ぜ

(a) 材料の練混ぜは、(5) (7) による。

(b) 溶剤系の下塗材又は上塗材の場合は、仕上塗材の製造所の指定する量の専用薄め液で均一に薄める。

(c) 2液形上塗材は、薄める前に基剤と硬化剤を仕上塗材の製造所の指定の割合で混ぜ合わせる。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合は、(8) (ウ) (a) による。

(b) ローラー塗りの場合は、(1) (ウ) (b) による。

上塗りは、次による。

(a) 上塗材の所要量は、メタリックの場合は、 0.4 kg/m^2 以上とする。また、上塗りの工程を 3 回以上とし、第 1 回目はクリヤー又はメタリックと同系色のエナメルを塗り付け、最上層はクリヤーとする。

(b) (a)以外の場合は、上塗りは、(8) (エ) による。

複層塗材 Si 及び複層塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(9) (ア) 及び (13) (ア) (c) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(13) (ウ) による。

上塗りは、(13) (エ) による。

可とう形複層塗材 CE は、次による。

材料の練り混ぜは、(13) (ア) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 吹付けの場合は、次による。

①基層塗りは、(3) (エ) (a) による。

②模様塗りは、(1) (ウ) (a) による。

③凸部処理は、(8) (ウ) (a) ④による。

(b) ローラー塗りの場合、(1) (ウ) (b) による。

上塗りは、(13) (エ) (b) による。

防水形複層塗材 CE 及び防水形複層塗材 RE は、次による。

材料の練混ぜは、(13) (ア) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

増塗りは、(3) (ウ) による。

主材塗りは、次による。

(a) 基層塗りは、2 回塗りとし、だれ、ピンホール、塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。

(b) 模様塗りは、(3) (エ) (b) による。

上塗りは、(13) (エ) (b) による。

防水形複層塗材 E は、次による。

材料の練混ぜは、(14) (ア) による。

下塗りは、(1) (イ) による。

増塗りは、(3) (ウ) による。

主材塗りは、(16) (エ) による。

上塗りは、(13) (エ) (b) による。

軽量骨材仕上塗材は、次による。

材料の練混ぜは、仕上塗材の製造所の指定する方法で均一になるように行う。

なお、練混ぜ量は、仕上塗材の製造所の指定する可使時間以内に使い終わる量とする。

下塗りは、(1) (イ) による。

主材塗りは、(7) (イ) による。

5 節 仕上塗材仕上げ

15. 6. 6 工 法

(1) 外装薄塗材 Si 仕上げ

1 5 . 6 . 6 (1) 外装薄塗材 Si 砂壁状 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5 による。					
1	下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材 Si 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材	JIS A 6909	外装薄塗材 Si 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ シリカリシン 水道水 0～3%	1.0 以上	2

*JIS A6909 外装薄塗材 Si の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1 液・水系)

・ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1 液・水系)

・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

・ニッペ 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

・ニッペ 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系)

(2) 外装薄塗材 E 仕上げ

1 5 . 6 . 6 (2) 外装薄塗材 E 砂壁状 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材	JIS A 6909	外装薄塗材 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペリシン 水道水 5～8%	1.0 以上	2

*JIS A6909 外装薄塗材 E の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1 液・水系)

①ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1 液・水系)

①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

・ニッペ 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系)

(2) 外装薄塗材 E 仕上げ (ゆず肌状、さざなみ状・ローラー)

15.6.6(2) 外装薄塗材 E 砂壁状 (ローラー) ※

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5. 6. 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	外装薄塗材 E 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材	JIS A 6909	外装薄塗材 E 主材	—	(1液・水系) ①ニッパ° リシンR 水道水 0～3%	0.6 以上	2

※当社の外装薄塗材 E「ニッペリシン R」によるローラー仕上げは、砂壁状の仕上がりとなります。

*JIS A6909 外装薄塗材 E の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1液・水系)

①ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)

①ニッペ 浸透性シーラー(新) (2液・溶剤系)

・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)

・ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)

・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

(3) 防水形外装薄塗材E

15.6.6(3) 防水形外装薄塗材E 凹凸状（吹付け）

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 下塗材	—	(1 液 ・ 水系) ニッペ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	※ (1 液 ・ 水系) ニッペ [®] DAN シリコンセラ S 水道水 5～10%	0.7 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	※ ニッペ [®] DAN シリコンセラ S 水道水 5～10%	1.0 以上	1 ～ 2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	※ ニッペ [®] DAN シリコンセラ S 水道水 0～5%	0.4 以上	1

※ ニッペ® DAN シリコンセラ S は、JIS 規格品ではありません。

* 上記以外に下記の商品も使用可能です。

●下塗材（下地の種類等により使用できない場合があります。）

- ・ ニッペ® 水性カチオンシーラー ホワイト（1液・水系）
- ・ ニッペ® ウルトラシーラーⅢ（透明・ホワイト）（1液・水系）
- ・ ニッペ® ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）
- ・ ニッペ® 浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）
- ・ ニッペ® 一液浸透シーラー（1液・溶剤系）
- ・ ニッペ® 1液ファインシーラー（1液・弱溶剤系）※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッペ® 浸透性シーラー（新）、ニッペ® ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）を使用してください。

(3) 防水形外装薄塗材E

15.6.6(3) 防水形外装薄塗材E さざ波状（ローラー）

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] DAN シリコンセラー R 水道水 0～6%	0.7 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	①ニッペ [®] DAN シリコンセラー R 水道水 0～6%	1.0 以上	1 ～ 2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形外装薄 塗材 E 主材	—	①ニッペ [®] DAN シリコンセラー R 水道水 5～10%	0.4 以上	1

※JIS A 6909 防水形外装薄塗材の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 合格仕様となります。)

●下塗材（下地の種類等により使用できない場合もあります。）

①ニッパ° 水性カチオンシーラー（ホワイト）（1液・水系）

①ニッパ° ウルトラシーラーⅢ（透明・ホワイト）（1液・水系）

①ニッパ° 浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）

①ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

①ニッパ° 一液浸透シーラー（1液・溶剤系）

・ニッパ° 1液ファインシーラー（1液・弱溶剤系）※

●主材

①ニッパ° DAN フレッシュ R（1液・水系）

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッパ° 浸透性シーラー（新）、ニッパ° ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）を使用してください。

(9) 外装厚塗材E

15.6.6(9) 外装厚塗材E 吹放し 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5 による。					
1	下塗材	JIS A 6909	外装厚塗材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	主材基層	JIS A 6909	外装厚塗材 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] タイルラックスタック 水道水 5～10%	1.5 以上	1
3	主材模様	JIS A 6909	外装厚塗材 E 主材	—	①ニッペ [®] タイルラックスタック 水道水 0～5%	1.5 以上	1
4	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーA をつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5	上塗材 ※1	—	—	—	(アクリル系・1 液・水性) ニッペ [®] タイルラック水性トップ つや一番 水道水 5～10%	0.3 以上	2

※1. 適用は特記による。

*JIS A 6909 外装厚塗材 E の規格では、上記以外に下記の製品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

①ニッペ 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)

- ・ニッペ 水性透明シーラー (1液・水系)
- ・ニッペ 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ・ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

(13) 複層塗材RE

1 5. 6. 6(13) 複層塗材RE 凹凸状 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5. 6. 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] タイルラック 1 液 EPO-S ベース 水道水 1～3%	0.7 以上	1
3	主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	①ニッペ [®] タイルラック 1 液 EPO-S ベース 水道水 1～3%	0.8 以上	1
4	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーAをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ [®] タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5～10%		

※オーデフレッシュ F100IIIの場合、上塗り 1 回目には、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*JIS A 6909 複層仕上塗材 RE の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

①ニッペ[®] 水性ホワイトシーラー (1 液・水系)

①ニッペ[®] ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

①ニッペ[®] 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

①ニッペ[®] 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ[®] 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系)

●上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①デュフロン 4FII フレッシュ (フッ素系・2 液・溶剤系)

(上塗材 1 回目塗りには、「デュフロン 4FII 中塗」を塗装してください。)

- ・ファイン 4F セラミック (フッ素系・2 液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2 液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2 液・水系)
(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1 液・水系)
(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2 液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2 液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインウレタン U100 (ウレタン系・2 液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 1 液ファインウレタン U100 (ウレタン系・1 液・弱溶剤系)

15. 6. 6(13) 複層塗材RE ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッペ 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 主材	—	(1液・水系) ①ニッペ タイルラック 1液 EPO-S ベース 水道水 2～6%	1.0 以上	1
3	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 RE 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッペ タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5～10%		

※オーデフレッシュ F100IIIの場合、上塗り1回目には、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

※JIS A 6909 複層仕上塗材 RE の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合もあります。)

①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1液・水系)

①ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)

①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)

①ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)

・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①デュフロン 4FII フレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)

(上塗材1回目塗りには、「デュフロン 4FII 中塗」を塗装してください。)

・ファイン 4F セラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)

・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッペ ファイン Si（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッペ ファインウレタン U100（ウレタン系・2液・弱溶剤系）
- ・ニッペ 1液ファインウレタン U100（ウレタン系・1液・弱溶剤系）

(14) 複層塗材E

1 5 . 6 . 6(14) 複層塗材E 凹凸状 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 1～3%	0.7 以上	1
3	主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 1～3%	0.8 以上	1
4	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーA をつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 E 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5～10%		

※オーデフレッシュ F100Ⅲの上塗 1 回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*JIS A 6909 複層仕上塗材 E の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1 液・水系)

①ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1 液・水系)

①ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

①ニッペ 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系)

●上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①デュフロン 4 F Ⅱフレッシュ (フッ素系・2 液・溶剤系)

(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡ中塗」を塗装してください。)

①ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)

・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)

・ニッペ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(14) 複層塗材E

15. 5. 6(14) 複層塗材E ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材	JIS A 6909	複層仕上塗 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ タイルラック EMA-S ベース 100K 水道水 2～6%	1.0 以上	1
3	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 E 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5～10%		

※オーデフレッシュ F100IIIの場合、上塗1回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*JIS A 6909 複層仕上塗材 E の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

- ①ニッペ 水性ホワイトシーラー (1液・水系)
- ①ニッペ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1液・水系)
- ①ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)
- ①ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系)

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①デュフロン4 F IIフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4 F II中塗」を塗装してください。)
- ①ファイン4 F セラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)

①ニッペ ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)

・ニッペ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(14) 複層塗材 Si

1 5 . 6 . 6 (14) 複層塗材 Si 凹凸状 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5 による。					
1	下塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 Si 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] 水性透明シーラー 水道水 100%	0.1 以上	1
2	主材基層	JIS A 6909	複層仕上塗 Si 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] タイルラック シリカ S ベース 水道水 0～3%	0.7 以上	1
3	主材模様	JIS A 6909	複層仕上塗 Si 主材	—	①ニッペ [®] タイルラック シリカ S ベース 水道水 0～3%	0.8 以上	1
4	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーA をつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
5	上塗材	JIS A 6909	複層仕上塗材 Si 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ [®] タイルラック 水性トップ つや一番 水道水 5～10%		

※オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗 1 回目には「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*JIS A 6909 複層仕上塗材 Si の規格では、上記以外に下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により使用できない場合があります。)

①ニッペ[®] 水性ホワイトシーラー (1 液・水系)

・ニッペ[®] 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト) (1 液・水系)

①ニッペ[®] ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

・ニッペ[®] 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

①ニッペ[®] 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ[®] 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系)

●上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2 液・水系)

(上塗材 1 回目には、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

・デュフロン 4FⅡフレッシュ (フッ素系・2 液・溶剤系)

(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡ中塗」を塗装してください。)

- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ・スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)

(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインウレタン U100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインウレタン U100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)

(16) 防水形複層塗材RE

1 5 . 6 . 6 (16) 防水形複層塗材RE 凹凸模様 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 RE 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッパ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 RE 主材	—	(1 液・水系) ①ニッパ [®] DAN フィーラ [®] S 水道水 5～10%	0.9 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 RE 主材	—	①ニッパ [®] DAN フィーラ [®] S 水道水 5～10%	1.7 以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 RE 主材	—	①ニッパ [®] DAN フィーラ [®] S 水道水 0～3%	0.9 以上	1
5	プラスチックローラーに塗料用シンナーをつけて、主材模様吹き直後に凸部を押える。 (凸部処理の場合のみ実施)						
5	上塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 RE 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッパ [®] DAN タイル 水性上塗 水道水 5～20%		

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材の1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

* JIS A 6909 防水形複層塗材 RE の規格では、下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地の種類等により塗装できない場合もあります。)

①ニッペ[®] 水性カチオンシーラー ホワイト (1 液・水系)

①ニッペ[®] 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

・ニッペ[®] ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

・ニッペ[®] 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

・ニッペ[®] 1 液ファインシーラー (1 液・弱溶剤系) ※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッペ[®] 浸透性シーラー (新) 、ニッペ[®] ファイン浸透シー

ラー（透明・ホワイト）を使用してください。

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F（フッ素系・2液・水系）
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ・スーパーオーデフレッシュ F（フッ素系・1液・水系）
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ・ファイン4Fセラミック（フッ素系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッペ ファインフッソ（フッ素系・2液・弱溶剤系）
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ（フッ素系・2液・溶剤系）
（上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。）
- ・ニッペ パワーオーデフレッシュ Si（シリコン系・2液・水系）
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ①ニッペ スーパーオーデフレッシュ Si（シリコン系・1液・水系）
（上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。）
- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッペ ファイン Si（シリコン系・2液・弱溶剤系）
- ①ニッペ 弾性ファインウレタンU100（ウレタン系・2液・弱溶剤系）
- ・ニッペ 1液ファインウレタンU100（ウレタン系・1液・弱溶剤系）
（ニッペ 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。）

(16) 防水形複層塗材RE

1 5. 6. 6(16) 防水形複層塗材RE ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5. 6. 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 RE 下塗材	—	(1液・水系) ①ニッペ 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 RE 主材	—	(1液・水系) ①ニッペ DAN フィラー エポ 水道水 0～3%	0.9 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗 材 RE 主材	—	①ニッペ DAN フィラー エポ 水道水 0～3%	1.7 以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗 材 RE 主材	—	①ニッペ DAN フィラー エポ 水道水 0～3%	0.9 以上	1
5	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 RE 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1液・水系) ①ニッペ DAN タイル 水性上塗 水道水 5～20%		

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材の1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*ニッペ DAN フィラー エポをローラー（多孔質ローラー）で塗装すると、仕上げの形状は「さざ波状」になります。細目のローラーを使用したり、希釈率を調整することによりゆず肌状の仕上げ形状に近づけることはできますが、事前に仕上りの確認を行ってください。

*JIS A 6909 防水形複層塗材 RE の規格では、下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材

①ニッペ 水性カチオンシーラー ホワイト (1液・水系)

①ニッペ 浸透性シーラー (新) (2液・溶剤系)

・ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2液・弱溶剤系)

・ニッペ 一液浸透シーラー (1液・溶剤系)

・ニッペ 1液ファインシーラー (1液・弱溶剤系) ※

※新設の押出成形セメント板、GRC板などの場合は、ニッペ 浸透性シーラー (新)、ニッペ ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) を使用してください。

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)
(上塗材1回目塗りには、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。)
- ・ニッペ パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ 弾性ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)
(ニッペ 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

(17) 防水形複層塗材E

1 5 . 6 . 6 (17) 防水形複層塗材E 凹凸状 凸部処理 (吹付け)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5 . 6 . 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ [®] DAN タイル中 塗 水道水 5～8%	0.9 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防水形複層塗 材 E 主材	—	①ニッペ [®] DAN タイル中 塗 水道水 5～8%	1.7 以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防水形複層塗 材 E 主材	—	①ニッペ [®] DAN タイル中 塗 水道水 1～3%	0.9 以上	1
5	凸部処理	プラスチックローラーに塗料用シンナーA をつけて、主材模様吹き直後に凸部を押さえる。 (凸部処理の場合のみ実施)					
6	上塗材	JIS A 6909	防水形複層塗 材 E 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデ [®] フレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデ [®] フレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデ [®] フレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ [®] DAN タイル 水性上塗 水道水 5～20%		

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

※ JIS A 6909 防水形複層塗材 E の規格では、下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材 (下地等の種類により使用できない場合があります。)

①ニッペ® 水性カチオンシーラー ホワイト (1 液・水系)

①ニッペ® ファイン浸透シーラー (透明・ホワイト) (2 液・弱溶剤系)

①ニッペ® 浸透性シーラー (新) (2 液・溶剤系)

①ニッペ® 一液浸透シーラー (1 液・溶剤系)

●上塗材

・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2 液・水系)

(上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)

- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)
(上塗材1回目塗りは、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りに、は、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りに、は、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ 弾性ファインウレタン U100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインウレタン U100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)
(ニッペ 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

(17) 防水形複層塗材E

1 5. 6. 6(17) 防水形複層塗材E ゆず肌状 (ローラー仕上げ)

工 程		塗料その他			商 品 名	所要量 (kg/m ²)	塗り回 数
		規格番号	規格名称	種類			
下地調整		1 5. 6. 5による。					
1	下塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 E 下塗材	—	(1 液・水系) ①ニッペ 水性カチオンシーラー 透明 無希釈	0.1 以上	1
2	増塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 E 主材	—	(1 液・水系) ①ニッペ DAN タイル中 塗 水道水 5～8%	0.9 以上	1
3	主材基層	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 E 主材	—	①ニッペ DAN タイル中 塗 水道水 5～8%	1.7 以上	2
4	主材模様	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 E 主材	—	①ニッペ DAN タイル中 塗 水道水 5～8%	0.9 以上	1
5	上塗材	JIS A 6909	防 水 形 複 層 塗 材 E 上塗材	耐 候 形 1 種	(フッ素系・1 液・水系) ※ オーデフレッシュ F100Ⅲ 水道水 5～10%	0.25 以上	2
					(シリコン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ Si100Ⅲ 水道水 5～10%		
				—	(ウレタン系・1 液・水系) ①オーデフレッシュ U100Ⅱ 水道水 5～10%		
				—	(アクリル系・1 液・水系) ①ニッペ DAN タイル 水性上塗 水道水 5～20%		

※ オーデフレッシュ F100Ⅲの場合、上塗材 1 回目塗りには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。

*DAN タイル中塗をローラー（多孔質ローラー）で塗装すると、仕上げの形状は「さざ波状」になります。細目のローラーを使用したり、希釈率を調整することによりゆず肌状の仕上げ形状に近づけることはできませんが、事前に仕上がりの確認を行ってください。

*JIS A 6909 防水形複層塗材 E の規格では、下記の商品も使用可能です。

(①マーク品の組合せが、JIS A 6909 適合仕様となります。)

●下塗材（下地等の種類により使用できない場合があります。）

①ニッペ 水性カチオンシーラー ホワイト（1液・水系）

①ニッペ ファイン浸透シーラー（透明・ホワイト）（2液・弱溶剤系）

①ニッペ 浸透性シーラー（新）（2液・溶剤系）

①ニッペ 一液浸透シーラー（1液・溶剤系）

●上塗材

- ・パワーオーデフレッシュ F (フッ素系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・スーパーオーデフレッシュ F (フッ素系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りは、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ・ファイン4Fセラミック (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファインフッソ (フッ素系・2液・弱溶剤系)
- ・デュフロン4FⅡフレッシュ (フッ素系・2液・溶剤系)
(上塗材1回目塗りは、「デュフロン4FⅡソフト中塗」を塗装してください。)
- ・パワーオーデフレッシュ Si (シリコン系・2液・水系)
(上塗材1回目塗りにには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ スーパーオーデフレッシュ Si (シリコン系・1液・水系)
(上塗材1回目塗りにには、「オーデフレッシュ共通中塗」を塗装してください。)
- ①ニッペ ファインシリコンフレッシュ (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ ファイン Si (シリコン系・2液・弱溶剤系)
- ①ニッペ 弾性ファインウレタンU100 (ウレタン系・2液・弱溶剤系)
- ・ニッペ 1液ファインウレタンU100 (ウレタン系・1液・弱溶剤系)
(ニッペ 1液ファインウレタンU100 弾性添加剤を現場で添加し、ご使用ください。)

15.6.7 所要量等の確認

所要量等の確認方法は、防水形の仕上塗材又は軽量骨材仕上塗材の場合、単位面積当たりの使用量によることを標準とする。また、仕上がりの程度の確認は、表15.6.4による。

表15.6.4 仕上がりの程度の確認

確 認 事 項	仕上りの程度
見本帳又は見本塗板との比較	見本と色合、模様、つや等の程度が同様であること。
塗り面の状態	むら、はじき等がないこと。

7節 マスチック塗材塗り

15.7.1 一般事項

この節は、コンクリート面、押出成形セメント板面、モルタル面及びALCパネル面に、マスチック塗材を多孔質のハンドローラーを用いて塗る工法に適用する。

15.7.2 材料

(1) マスチック塗材塗りは、表15.7.1により、○印の工程を行い、種別は、特記による。

表15.7.1 マスチック塗材塗り

工 程		種別		塗材その他	商 品 名 希釈剤・希釈率	塗付け量 (kg/m ²)
		A種	B種			
素地 ごしらえ		○(注)1		18.2.5[モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ]又は18.2.6[コンクリート面、ALC パネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ]による。		
1	下 地 押 え	○	—	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	0.12
		—	○	マスチック C 用シーラー	—	0.12
2	塗 材 塗 り	○	—	マスチック塗材 A	—	1.20
		—	○	マスチック塗材 C	—	1.80
3	仕上材 塗り	—	○	つや有合成樹脂エマルジョンペイント 2 回塗り	—	0.20

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗材その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6[コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ]によるB種とする。

(2) マスチック塗材は、マスチック塗材の製造所において調合されたものとする。

(3) マスチック塗材は、施工に先立ち、かくはん機を用いてかくはんする。

(4) 塗付けは、下地にくばり塗りを行った後、均し塗りをを行い、次にローラー転圧によりパターン付けをして、一段塗りで仕上げる。

(5) 塗継ぎ幅は、800mm程度として、塗継ぎ部が目立たないように、むらなく仕上げる。

(6) パターンの不ぞろいは、追掛塗りをし、むら直しを行って調整する。

日本ペイントの対応商品は、下記ホームページをご参照ください。

JIS A 6909 建築用仕上塗材 規格と組合せ一覧表

<http://www.nipponpaint.co.jp/tips/JIS2.pdf>

18章 塗装工事

1節 共通事項

18.1.1 一般事項

この章は、建物内外部のコンクリート、木部、金属、ボード類、モルタル等の素地に塗装を施す工事に適用する。また、1章[各章共通事項]と併せて適用する。

18.1.2 基本要求品質

塗装工事に用いる材料は、所定のものであること。

塗装の仕上り面は、所要の状態であること。

塗膜は、耐久性、耐火性等に対する有害な欠陥がないこと。

18.1.3 材料

(10) この章で規定する塗料を屋内で使用する場合のホルムアルデヒド放散量は、JIS等の材料規格において放散量が規定されている場合、特記による。特記がなければ、F☆☆☆☆とする。

設計図書に定められた防火材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

上塗り用の塗料は、上塗塗料の製造所において、指定された色及びつやに調合する。ただし、少量の場合は、同一の上塗塗料の製造所の塗料を用いて現場調色とすることができる。

塗装に使用する塗料の副資材は、上塗材料の製造所が指定するものとする。

18.1.4 施工一般

(11) 塗料の取り扱い

塗料は、調合された塗料をそのまま使用する。ただし、素地の粗密、吸収性の大小、気温の高低等に応じて、適切な粘度に調整することができる。

こしわけ

塗料は、使用直前によくかき混ぜ、必要に応じて、こしわけを行う。

研磨は、次による。

研磨紙は、JIS R 6251（研磨布）及びJIS R 6252（研磨紙）による。

研磨紙ずりは、下層塗膜及びパテが硬化乾燥した後、各層ごとに研磨紙で素地の長手方向に、下層の塗膜を研ぎ去らないように注意して研ぐ。

穴埋め、パテかい及びパテしごきは、次による。

穴埋めは、深い穴、大きな隙間等に穴埋め用パテ等をへら又はこてで押し込み埋める。

パテかいは、塗装面の状況に応じて、塗装面のくぼみ、隙間、目違い等の部分に、パテをへら又はこてで薄く付ける

パテしごきは、パテを全面にへら付けし、表面に過剰のパテを残さないよう、素地が現れるまで十分しごき取る。

塗り方は、(ア)から(ウ)までの工法のうち塗料に適したものとし、色境、隅、ちり回り等は、乱さないよう十分注意し、区画線を明確に塗り分ける。

なお、錆止め塗料塗りは、浸漬塗りとすることができる。

はけ塗りは、はけ目を正しく一様に塗る。

吹付け塗りは、塗装用のスプレーガンを用いる。ガンの種類、口径、空気圧等は、用いる塗料の性状に応じて、適切なものを選び、吹きむらのないよう一様に塗る。

ローラーブラシ塗りは、隅角部、ちり回り等を小ばけ又は専用ローラーを用い、全面が均一になるように塗る。

塗付け量は、平らな面に実際に付着させる塗料の標準量（1回当たり）とする。ただし、塗料の標準量は、

薄める前のものとする。

塗装工程に種別のあるものは、特記された種別に応じて、各表中の○印の工程を行う。

各塗装工程の工程間隔時間及び最終養生時間は、材料の種類、気象条件等に応じて適切に定める。

中塗り及び上塗りの各層の色を変えること等により、中塗り及び上塗りが全面に均一に塗られていることを確認する。

組立、取付け後及び工事の取合い上、塗装困難となる部分は、あらかじめ仕上げ塗りまで行う。

シーリング面に塗装仕上げを行う場合は、シーリング材が硬化した後に行うものとし、塗重ねの適合性を確認し、必要な措置を講ずる。

18. 1. 5 見本

仕上げの色合は、あらかじめ監督職員に提出した見本帳または見本塗板による。

18. 1. 6 施工管理

気温が5℃以下、湿度が85%以上、結露等で塗料の乾燥に不適当な場合は、塗装を行わない。ただし、採暖、換気等を適切に行う場合は、この限りではない。

(1) 外部の塗装は、降雨のおそれのある場合又は強風時には、原則として、行わない。

塗装面、その周辺、床等に汚損を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ塗装箇所周辺に適切な養生を行う。

(2) 塗装を行う場所は、換気に注意して、溶剤による中毒を起こさないようにする。

火気に注意し、爆発、火災等の事故を起こさないようにする。また、塗料をふき取った布、塗料の付着した布片等で、自然発火を起こすおそれのあるものは、作業終了後、直ちに処置を講ずる。

18. 1. 7 塗装面の確認等

塗装の仕上がり面の確認は目視とし、表18. 1. 1による。ただし、錆止め塗料塗りの品質確認は、次により、塗付け量又は標準膜厚の確認を行う。

工事現場塗装の場合は、使用量から単位面積当たりの塗付け量を推定する。

工場塗装の場合は、電磁膜厚計その他適切な測定器具により、膜厚の確認を行う。

試験ロットの構成、1回の測定箇所数、可否の判定、不合格ロットの措置等は、1. 2. 2[施工計画書]による品質計画で定める。

表18. 1. 1 塗装面の確認方法

項 目	状 態
見本塗板等との比較	見本塗板等と色、つや及び仕上げの程度が同様であること。
仕上り面の状態	むら、しわ、へこみ、はじき、つぶ等がないこと。

2節 素地ごしらえ

18.2.1 一般事項

この節は、木部、鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、モルタル面、コンクリート面、ボード面等の素地ごしらえに適用する。

18.2.2 木部の素地ごしらえ

木部の素地ごしらえは表18.2.1により、種別は特記による。特記がなければ、不透明塗料塗りの場合はA種、透明塗料塗りの場合はB種とする。

表18.2.1 木部の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料 そ の 他			面の処置
		A 種	B 種	規格番号	規格名称	種類	
1	汚れ、付着物除去	○	○	—			木部を傷付けないように除去し、油類は、溶剤等でふき取る。
2	やに処理	○	○	—			やには、削り取り又は電気ごて焼きのうえ、溶剤等でふき取る。
3	研磨紙ずり	○	○	研磨紙P 1 2 0～2 2 0			かな目、逆目、けば等を研磨する。
4	節止め	○	—	JASS 18 M-304	木部下塗り用調合ペイント	合成樹脂	節及びその周辺に、はけ塗りを行う。 Hi-CR 下塗白（無鉛） 塗料用シナー A 0～5%
				JASS 18 M-308	セラックス類	白ラックス 1 種	
5	穴埋め	○	—	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	割れ、穴、隙間、くぼみ等に充填する。 Hiビニレックス耐水パテ（仕上）
6	研磨紙ずり	○	—	研磨紙P 1 2 0～2 2 0			穴埋め乾燥後、全面を平らに研磨する。

（注）1. ラワン、しおじ等導管の深いもの場合は、必要に応じて、工程2の後に塗料の製造所の指定する目止め処理を行う。

2. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。

3. JASS 18 M-304 及び M-308 は、日本建築学会材料規格である。

4. 工程4 節止めにおいて、JASS 18 M-304 は合成樹脂調合ペイント及びつや有り合成樹脂エマルジョンペイントに適用し、それ以外は JASS 18 M-308 を適用する。

透明塗料塗りの素地ごしらえは、必要に応じて、表18.2.1の工程を行った後、次の工程を行う。

着色顔料を用いて着色兼用目止めをする場合は、はけ、へら等を用いて、着色顔料が塗面の木目に十分充填

するように塗り付け、へら、乾いた布等で、色が均一になるように余分な顔料をきれいにふき取る。

着色剤を用いて着色する場合は、はけ等で色むらの出ないように塗り、塗り面の状態を見計らい、乾いた布でふき取って、色が均一になるようにする。

素地面に、仕上げに支障のおそれがある著しい色むら、汚れ、変色等がある場合は、漂白剤等を用いて修正した後、水ぶき等により漂白剤を除去し、十分に乾燥させる。

18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ

鉄鋼面の素地ごしらえは表18.2.2により、種別は特記による。特記がなければ、C種とする。

表18.2.2 鉄鋼面の素地ごしらえ

工 程		種別			塗料その他	面の処置	備考
		A種 (注)	B種 (注)	C種			
1	汚れ、付着物除去	○	—	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシ等で除去	—
2	油類除去	○	—	—	—	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後、湯又は水洗い。	—
		—	○	○	—	溶剤ぶき	
3	錆落とし	○	—	—	—	酸漬け、中和及び湯洗いにより除去	直ちに次の工程に移る。
		—	○	—	—	ブラスト法により除去	
		—	—	○	—	ディスクサンダー、スクレーパー、ワイヤブラシ、研磨紙 P120～220 で除去	
4	化成皮膜処理	○	—	—	—	りん酸塩処理後、湯洗い乾燥	

(注) A種及びB種は、製作工場で行うものとする。

18.2.4 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえは、表18.2.3により、種別は特記による。特記がなければ、塗り工法に応じた節の規定による。

表18.2.3 亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料その他	面の処置
		A 種 (注)	B 種		
1	汚れ、付着物除去	○	○	—	スクレーパー、ワイヤブラシ等で除去
2	油類除去	○	—	—	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後、湯又は水洗い
		—	○	—	溶剤ぶき
3	化成皮膜処理	○	—	—	りん酸塩処理後、水洗い乾燥又はクロメートフリー処理後、乾燥

(注) 1. A 種は、製造所等で行うものとする。

2. 鋼製建具等に使用する亜鉛めっき鋼板の種別は、B 種とし、工程3の化成皮膜処理を行ったものとする。

18. 2. 5 モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ

モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえは表18. 2. 4により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18. 2. 4 モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置
		A種	B種	規格 番号	規格名称	種類		
1	乾燥	○	○	—	—	—	—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ・付着物除去	○	○	—	—	—	—	素地を傷付けないように除去する。
3	吸込止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	水性透明シーラー 水道水 100%	全面に塗り付ける。
4	穴埋め パテかい	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	1材フィラー #200	ひび割れ、穴等を埋めて、不陸を調整する。
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	H i ビニレックス 耐水パテ（仕上）	
5	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	乾燥後、表面を平らに研磨する。
6	パテ しごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	1材フィラー #200	全面をしごき取り平滑にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	H i ビニレックス 耐水パテ（仕上）	
7	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

（注）1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程3の吸込止めは、塗料の製造所の指定するものとする。

2. 仕上材が仕上塗材の場合、パテ及び工程3の吸込止めは、仕上塗材の製造所の指定するものとする。

3. 仕上材が壁紙の場合、パテ及び工程3の吸込止めは、壁紙専用のものとする。

4. 仕上材がマスチック塗材塗りの場合は、工程3の吸込止めを省略する。

5. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。

※吸い込み止めには、ニッペ 水性透明シーラー以外に、ニッペ 水性ホワイトシーラー、ニッペ 水性シミ止めシーラーⅡ、ニッペ 水性カチオンシーラー透明、ニッペ 水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

18. 2. 6 コンクリート面、ALC パネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

- (1) コンクリート面及びALC パネル面の素地ごしらえは表18. 2. 5により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。ただし、7節の場合は(2)による。

表18. 2. 5 コンクリート面及びALC パネル面の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置
		A種	B種	規格 番号	規格名称	種類		
1	乾燥	○	○	—	—	—	—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ・付着物除去	○	○	—	—	—	—	素地を傷付けないように除去する。
3	吸込み止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	ニッパ° 水性透明シーラー 水道水 100%	全面に塗り付ける。
4	下地調整塗り	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1、 C-2、 CM-2 又は E	(C-1) ニッパ° 1材ファイバー#200 (C-2) ニッパ° 1材カチオンファイバー (E) ニッパ° アンダーファイバーS 又は AL	全面に塗り付けて平滑にする。
5	研磨紙ずり	○	○	研磨紙 P 120～220			—	乾燥後、表面を平らに研磨する。
6	パテしごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ニッパ° 1材ファイバー#200	全面をしごき取り平滑にする。
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	Hiビニックス 耐水パテ (仕上)	
7	研磨紙ずり	○	—	研磨紙 P 120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

(注) 1. コンクリート面の場合は、工程4の建築用下地調整塗材が C-1、C-2 又は CM-2 の場合、工程3を省略する。

2. 合成樹脂エマルジョンパテは、外部に用いない。

3. 工程3の建築用下地調整塗材の C-1、C-2、CM-2 又は E の使い分けは、15. 6. 5[下地調整]

(1) 及び (4) による。

※吸い込み止めには、ニッパ° 水性透明シーラー以外に、ニッパ° 水性ホワイトシーラー、ニッパ° 水性シミ止めシーラーⅡ、ニッパ° 水性カチオンシーラー透明、ニッパ° 水性カチオンシーラーホワイトも適用可能です。

- (2) 押出成形セメント板面及び7節におけるコンクリート面の素地ごしらは表18. 2. 6による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表18. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらは

工 程	種別	A 種	B 種	塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置
				規格 番号	規格名称	種類		
1	乾燥	○	○	—	—	—	—	素地を十分に乾燥させる。
2	汚れ・付着 物除去	○	○	—	—	—	—	素地を傷付けないように除去する。
3	下地調整 塗り ^{(注)1}	○	—	JIS A 6916	建築用下地 調整塗材	C-1, C-2 又 は CM-2	(C-1) ニッペ 1 材ファイ #200 (C-2) ニッペ 1 材カチオンファイ	全面に塗り付けて 平滑にする。
4	吸込止め	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹 脂シーラーお よび弱溶剤系 反応形合成樹 脂シーラー	—	ニッペ 浸透性 シーラー(新)、ニッ ペ ファイン浸透 シーラー(透明) 無希釈	全面に塗り付け る。
5	パテ しごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成 樹脂パテ	2 液形エ ポキシ樹 脂パテ	タフガード E パテ	全面をしごき取り 平滑にする。
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙 P120～220			—	乾燥後、全面を平 らに研磨する。

- (注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程3を省略する。
2. 工程4のシーラー及び工程5のパテは、上塗塗料の製造所の指定する製品とする。
3. JASS 18 M-201 及び M-202 は、日本建築学会材料規格である。
4. 工程3の建築用下地調整塗材の C-1、C-2 又は CM-2 の使い分けは、15. 6. 5[下地調整](1) 及び(5)による。

18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえは表18. 2. 7により、種別は特記による。特記がなければ、せっこうボードの目地工法が継目処理工法の場合はA種、その他の場合はB種とする。

表18. 2. 7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ

工 程		種別		塗料 そ の 他			日本ペイント 商品名	面の処置
		A種	B種	規格 番号	規格名称	種類		
1	乾燥	○	○	—	—	—	—	継目処理部分を十分乾燥させる。
2	汚れ、付着物除去	○	○	—	—	—	—	素地を傷付けないように除去する。
3	穴埋め パテかい	○	○	JIS K 5669	合成樹脂 エマルション パテ	一般形	Hi ビニレックスエコ仕上げパテ	釘頭、たたき跡、傷等を埋め、不陸を調整する。
				JIS A 6914	せっこうボード用目地処理材	ジョイントコンパウンド	—	
4	研磨紙 ずり	○	○	研磨紙P120～220			—	乾燥後、表面を平らに研磨する。
5	パテ しごき	○	—	JIS K 5669	合成樹脂 エマルション パテ	一般形	Hi ビニレックスエコ仕上げパテ	全面をしごき取り平滑にする。
				JIS A 6914	せっこうボード用目地処理材	ジョイントコンパウンド	—	
6	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙P120～220			—	乾燥後、全面を平らに研磨する。

(注) 1. 屋外及び水回り部分の場合、工程3及び工程5の合成樹脂エマルションパテは、塗料の製造所の指定するものとする。(Hi ビニレックスエコ仕上げパテは、屋外及び水回り部には使用しないでください。)

2. 工程3及び工程5のせっこうボード用目地処理材は、素地がせっこうボードの場合に適用する。

3. けい酸カルシウム板の場合は、工程3の前に吸込止めとして JASS 18M-201 に基づく塗料 (ニッパ 浸透性シーラー (新)、ニッパ ファイン浸透シーラー (透明)) を全面に塗る。ただし、屋内で現場塗装する場合、吸い込み止め用材料は上塗塗料の製造所の指定する水系塗料 (ニッパ 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)) とする。

4. 仕上材が仕上塗材の場合は、パテは、仕上塗材の製造所の指定するものとする。

5. 仕上材が壁紙の場合は、パテは、壁紙専用のものとする。

3節 錆止め塗料塗り

18.3.1 一般事項

この節は、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗りに適用する。

18.3.2 塗料種別

鉄鋼面錆止め塗料の種別は、表18.3.1のA種とする。ただし、8節の場合は、A種又はB種とし、適用は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.3.1 鉄鋼面錆止め塗料の種別

種別	錆 止 め 塗 料 そ の 他				塗付け量 (kg/m ²)	標準膜厚 (μ m)	適用
	規格番号	規格名称	種類	商 品 名			
A種	JIS K 5674	鉛・クロムフリー さび止めペイント	1 種	速乾 PZ ヘルゴ [®] ソエコ 塗料用シンナー A 0～10%	0.10	30	屋外 屋内
				超速乾型 PZ ヘルゴ [®] ソエコ 塗料用シンナー A 0～10%			
B種	次のいずれかによる。						屋内
	JASS 18 M-111	水系さび止め ペイント	—	水性ハイボ [®] ソプライマー 水道水 0～5%	0.11	30	
	JIS K 5674	鉛・クロムフリー さび止めペイント	2 種		0.11	30	

(注) 1. JIS K 5674 (鉛・クロムフリーさび止めペイント) に基づき、1種は溶剤系、2種は水系である。
2. JASS 18 M-111 は、日本建築学会材料規格である。

*JASS 18 M-111 規格では、下記商品も使用可能です。

- ・オーデハイポンプライマー
- ・1液水性デクロ

亜鉛めっき鋼面錆止め塗料の種別は、表18.3.2のA種又はB種とし、適用は特記による。特記がなければ、A種とする。ただし、8節の場合はC種とする。

表18.3.2 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料の種別

種別	さ び 止 め 塗 料 そ の 他				塗付け量 (kg/m ²)	標準膜厚 (μm)	適用
	規格番号	規格名称	種類	商 品 名			
A種	JPMS 28	一液変性エポキシ 樹脂さび止め ペイント	—	1液ハビ [®] ソファインデ [®] 加 ※1 塗料用シンナー A 5～ 10%	0.10	30	屋外 屋内
B種	JASS 18 M-109	変性エポキシ樹脂フ ライマー(変性エポキシ 樹脂フライマーおよ び弱溶剤系 変性エポキシ樹脂 プライマー)	—	ハビ [®] ソファインブ [®] ライマーII 塗料用シンナー A 0～ 10%	0.14	40	屋外 屋内
C種	JASS 18 M-111	水系さび止め ペイント	—	水性ハビ [®] ソプライマー※3 水道水 0～5%	0.11	30	屋内

(注) 1. JPMS 28 は日本塗料工業会規格、JASS 18 M-109 及び M-111 は日本建築学会材料規格である。

2. JPMS 28 を使用する場合は、見え隠れ部分を除き、仕上げの上塗り等を行う。

※JPMS 28 規格では、下記商品も使用可能です。

・ニッペ[®] エスパ[®]ワンエース※1

・ユニエポック 60 プライマー※2

※1 1液ハイポ[®]ンファインデクロ、ニッペ[®]エスパ[®]ワンエースは、はけ・ローラー塗装用です。スプレーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

※2 ユニエポック 60 プライマーは、スプレー塗装用です。はけ・ローラーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

※JASS 18 M-109 規格では、下記商品も使用可能です。

・ハイポ[®]ン 20 デクロ

・ハイポ[®]ン 20 ファイン

・ハイポ[®]ン 20 ZN II (新)

※JASS 18 M-111 規格では、下記商品も使用可能です。

・オーデハイポ[®]ンプライマー

・1液水性デクロ

※3 水性ハイポ[®]ンプライマーは、はけ・ローラー塗装用です。スプレーでの塗装は仕上がり感が低下する場合がありますので、ご注意ください。

18.3.3 錆止め塗料塗り

- (12) 鉄鋼面錆止め塗料塗りは、表18.3.3により、種別は特記による。特記がなければ、見え掛け部分はA種とし、見え隠れ部分はB種とする。

表18.3.3 鉄鋼面錆止め塗料塗り

工 程		種 別		塗り工法その他
		A種	B種	
素地ごしらえ		○(注)		18.2.3による。
1	錆止め塗料塗り (下塗り1回目)	○	○	18.3.2(1)による。
2	研磨紙すり	○	—	研磨紙 P120～220
3	錆止め塗料塗り (下塗り2回目)	○	○	工程1に同じ

(注) 素地ごしらえの種別は、塗り工法その他の欄による。

鉄骨等鉄鋼面の錆止め塗料塗り工法は、次による。

- (ア) 2回目を鉄骨等の製作工場で塗る場合は、次による。
- ① 1回目の錆止め塗料塗りは、製作工場において組立て後に行う。ただし、組立後、塗装が困難となる部分は、組立前に錆止め塗料を2回塗る。
 - ② 必要に応じて、汚れ、付着物等を除去した後、塗膜の損傷部分の補修塗りを行い、乾燥後に2回目を塗る。
 - ③ 工事現場での建て方及び接合完了後、塗膜の損傷部分は、汚れ、付着物等を除去した後、錆止め塗料で補修する。また、接合部の未塗装部分は、汚れ、付着物、スパッター等を除去した後、錆止め塗料を2回塗る。
- (イ) 2回目を工事現場で塗る場合は、次による。
- ① 1回目の錆止め塗料塗りは、(ア) (a)による。
 - ② 工事現場での建て方及び接合完了後、塗膜の損傷部分は、汚れ、付着物等を除去した後、錆止め塗料で補修し、乾燥後に2回目を塗る。また、接合部の未塗装部分は、(ア) (c)による。

亜鉛めっき鋼面錆止め塗料塗りは、表18.3.4により、種別は特記による。特記がなければ、鋼製建具等はA種とし、その他はB種とする。ただし、B種に用いる錆止め塗料は表18.3.2のB種とし、8節の場合はC種とする。

表18.3.4 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料塗り

工 程		種 別		塗り工法その他
		A種	B種	
素地ごしらえ		○(注)	—	表18.2.3によるA種 ただし、鋼製建具等はB種
		—	○(注)	表18.2.3によるB種
1	錆止め塗料塗り (下塗り1回目)	○	○	18.3.2(2)による。
2	研磨紙すり	○	—	研磨紙 P180～240
3	錆止め塗料塗り (下塗り2回目)	○	—	工程1に同じ

(注) 素地ごしらえの種別は、塗り工法その他の欄による。

鋼製建具等亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗り工法は、次による。

- (ウ) 1回目の錆止め塗料塗りは、鋼製建具等の製造所において、見え隠れ部分は、組立前の部材

のうちに行う。また、見え掛り部分は、組立後、溶接箇所等を修正した後に行う。

- (エ) 2回目の錆止め塗料塗りは、工事現場において取付け後、汚れ及び付着物を除去し、塗膜の損傷部の損傷部を錆止め塗料で補修し、平滑に仕上げた後に行う。ただし、取付け後、塗装困難となる部分は、取付けに先立ち行う。
- (オ) 鋼製建具に用いる鋼板類で鉄鋼面の場合は、(2)の工法による。

錆止め塗料塗りは、次の部分以外の範囲を塗装する。

- (カ) 7. 8. 2[塗装の範囲] (1) の(ア)から(オ)までの部分
- (キ) 軽量鉄骨下地の類で、亜鉛めっきされたもの
- (ク) 床型枠用鋼製デッキプレートの類で、亜鉛めっきされたもの
- (ケ) 鋼製建具等で、両面フラッシュ戸の表面板裏側部分（中骨、力骨等を含む）等の見え隠れ部分

4節 合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)

18.4.1 一般事項

この節は、木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面の合成樹脂調合ペイント塗りに適用する。

18.4.2 塗料の種類

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種類は、特記による。特記がなければ、1種とする。

18.4.3 木部合成樹脂調合ペイント塗り

木部合成樹脂調合ペイント塗りは、表18.4.1により、種別は特記による。特記がなければ、屋外はA種、屋内はB種とする。ただし、多孔質広葉樹の場合を除く。

表18.4.1 木部合成樹脂調合ペイント塗り

工 程		種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A 種	B 種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ		○		1 8 . 2 . 2による。				
1	下塗り (1回目)	○	○	JASS 18 M-304	木部下塗り 用調合ペイ ント	合成 樹脂	Hi-CR 下塗白 (無鉛) 塗料用シンナー A 0～ 5%	0.09
2	下塗り (2回目)	○	—	JASS 18 M-304	木部下塗り 用調合ペイ ント	合成 樹脂	Hi-CR 下塗白 (無鉛) 塗料用シンナー A 0～ 5%	0.09
3	パテかい	—	○	JIS K 5669	合成樹脂エマル ジョンパテ	耐水形	Hi ビニックス耐水パテ (仕上)	—
4	研磨紙ずり	—	○	研磨紙 P 1 2 0 ～ 2 2 0				
5	中塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調 合 ペイント	—	Hi-CR デラックスエコⅡ 塗料用シンナー A 0～ 10%	0.09
6	上塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調 合 ペイント	—	Hi-CR デラックスエコⅡ 塗料用シンナー A 0～ 10%	0.08

(注) 1. 下塗りは、塗料を素地によくなじませるように塗る。木口部分は、特に丁寧に行う。

2. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

3. JASS 18 M-304 は、日本建築学会材料規格である。

*Hi ビニックス耐水パテ (仕上) は、屋外及び水回り部には使用しないでください。

18.4.4 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗りは表18.4.2により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.4.2 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

工 程		種別		塗料その他		日本ペイント 商品名	塗付け量 (kg/m ²)
		A種	B種	規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り		○ ^(注)		18.3.3(1)による。			
1	中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	H i - C R デラ ックスエコⅡ 塗料用シナー A 0 ～10%	0.09
2	研磨紙ざり	○	—	研磨紙P 2 2 0～2 4 0			
3	中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	H i - C R デラ ックスエコⅡ 塗料用シナー A 0 ～10%	0.09
4	上塗り	○	○	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	H i - C R デラ ックスエコⅡ 塗料用シナー A 0 ～10%	0.08

(注) 錆止め塗料塗りの種別は、塗料その他の欄による。

18.4.5 亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗りは、表18.4.3による。

表18.4.3 亜鉛めっき鋼面合成樹脂調合ペイント塗り

工 程		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り		18.3.3 (3) による。			
1	中塗り	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコⅡ 塗料用シンナー A 0～10%	0.09
2	上塗り	JIS K 5516	合成樹脂調合ペイント	Hi-CR デラックスエコⅡ 塗料用シンナー A 0～10%	0.08

(注) 錆止め塗料塗りの種別は、塗料その他の欄による。

5節 クリヤラッカー塗り (CL)

18.5.1 一般事項

この節は、木部のクリヤラッカー塗りに適用する。

18.5.2 クリヤラッカー塗り

クリヤラッカー塗りは表18.5.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.5.1 木部クリヤラッカー塗り

工 程		種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A 種	B 種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ		○ (注) 1		18.2.2 による。				
1	目止め	○	—	合成樹脂目止め剤				
2	着色 (注) 2	○	—	溶剤形着色剤 (溶剤形ステイン) 又は油性染料着色剤 (オイルステイン) (注) 2				
3	下塗り	○	○	JIS K 5533	ラッカー系シーラー	ウッド [△] シーラー	—	0.10
4	中塗り	○	—	JIS K 5533	ラッカー系シーラー	サンジ [△] ンク [△] シーラー	—	0.10
5	研磨紙ずり	○	○	研磨紙 P 2 2 0 ～ 2 4 0				
6	上塗り (1 回目)	○	○	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	木材用 クリヤラッカー	—	0.10
7	研磨紙ずり	○	—	研磨紙 P 2 4 0 ～ 3 2 0				
8	上塗り (2 回目)	○	—	JIS K 5531	ニトロセルロースラッカー	木材用 クリヤラッカー	—	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 木地 (生地) 仕上げ (色なし仕上げ) の場合は、工程 1 を省略する。

6節 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (NAD)

18.6.1 一般事項

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面等のアクリル樹脂系非水分散形塗料塗りに適用する。

18.6.2 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りは表18.6.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.6.1 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

工 程		種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A 種	B 種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ		○		モルタル面の素地ごしらえは、表 18.2.4 による B 種とする。 コンクリート面の素地ごしらえは、表 18.2.5 による B 種とする。 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表 18.2.6 による B 種とする。		—	—
1	下塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂非水分散形塗料	ニッペ ケンエース G・II 塗料用シンナー A 0～10%	0.10
2	研磨紙ざり	○	—	研磨紙 P 2 2 0 ～ 2 4 0		—	—
3	中塗り	○	—	JIS K 5670	アクリル樹脂非水分散形塗料	ニッペ ケンエース G・II 塗料用シンナー A 0～10%	0.10
4	上塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂非水分散形塗料	ニッペ ケンエース G・II 塗料用シンナー A 0～10%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、種別の欄による。

2. モルタル面の素地ごしらえは、表 18.2.4 による B 種とする。

3. コンクリート面の素地ごしらえは、表 18.2.5 による B 種とする。

4. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表 18.2.6 による B 種とする。

* ニッペ ケンエース G・II は艶消しです。艶有り仕上げが必要な場合は「ニッペ ケンエース G・II グロス」をご使用ください。

* JIS K 5670 規格では下記商品も使用可能です。

● 下塗り、中塗り、上塗り

- ・ ニッペ ケンエース G・II グロス
- ・ ニッペ ケンエース G アクト II

* 下塗り・中塗り・上塗りとも、同一商品をご使用ください。

7節 耐候性塗料塗り (DP)

18.7.1 一般事項

この節は、屋外の鉄鋼面、亜鉛めっき鋼面、コンクリート面等の耐候性塗料塗りに適用する。

18.7.2 鉄鋼面耐候性塗料塗り

鉄鋼面耐候性塗料塗りは、表18.7.1による。ただし、上塗り塗料の等級は特記による。なお、鉄鉚等の製作工場で溶接した箇所の下塗りは、(2)(イ)による。

表18.7.1 鉄鋼面耐候性塗料塗り

工 程		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		規格番号	規格名称	種類 又は 等級		
素地ごしらえ		表18. 2. 2によるB種				
1	下塗り (1回目)	JIS K 5552	ジンクリッチ プライマー	2 種	ニッペ ジンキー 8000 メタルグレー ニッペ ジンキー 8500 シナー 0～15%	0.14
2	下塗り (2回目)	JIS K 5551	構造物用さび 止めペイント	A 種	ハイボン 30 マスチックプライマー K ハイボ ンエポ キシシナー 0～10%	0.14
3	下塗り (3回目)	JIS K 5551	構造物用さび 止めペイント	A 種	ハイボン 30 マスチックプライマー K ハイボ ンエポ キシシナー 0～10%	0.14
4	研磨紙すり	研磨紙P 1 2 0～2 2 0				
5	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐 候性塗料	A 種 中塗り 塗料	ファイン中塗 DP 塗料用シナー A または SA 0～ 10%	0.14
6	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐 候性塗料	A 種 上塗り 塗料	1 級の場合 (ふっ素系) ファイン4 Fセラミック 塗料用シナー A 0～10%	0.10
					2 級の場合 (シリコン系) ファインシリコンフレッシュ 塗料用シナー A 0～10%	
					3 級の場合 (ポリウレタン系) ファインウレタン U100 塗料用シナー A 5～15%	

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 工程6まで鉄骨等の製作工場で行う場合は、工程4は省略する。

鉄骨等鉄鋼面の下塗りは、次による。

下塗りは、鉄骨等の製作工場において組立後に行う。ただし、組み立後、塗装困難となる部分は、組立前に下塗りを行う。

鉄骨等の製作工場で溶接した箇所は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、構造物用錆止めペイント(A種)を3回塗る。

現場組立後、現場溶接部及び組立中の下塗り損傷部分は、ディスクサンダー又は研磨紙P120程度で金属素地面が現れるまで錆等を除去し、JASS 18M-109に基づく塗料(表18.3.2のB種)を3回塗る。

● 上記以外に下記商品も使用可能です。

● 上塗り

- デュフロン100フレッシュII (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- デュフロン100ニューファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1級)
- ファインSi (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 2級)
- ハイボン50上塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3級)
- ハイボン50ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3級)

●中塗り

- デュフロン100ファイン中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100ファイン中塗U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マスチック中塗K (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マスチック中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗U (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り (3回目)	下塗り (2回目)	下塗り (1回目)
上塗り1級	—	デュフロン 100フレッシュII	デュフロン 100 中塗 K 又 は デュフロン 100 中塗	ハイボン30 マスチックプライマー K	ハイボン30 マスチックプライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
	—	デュフロン 100ファイン又は デュフロン 100ニューファイン	デュフロン100 ファイン中塗又は デュフロン100 ファイン中塗U	ハイボン30 マスチックプライマー K	ハイボン30 マスチックプライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
上塗り2級	—	ファインSi	ファイン中塗 DP	ハイボン30 マスチックプライマー K	ハイボン30 マスチックプライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
上塗り3級	—	ハイボン50上塗	ハイボン 30 マスチック中塗 K 又は ハイボン 30 マスチック中塗	ハイボン30 マスチックプライマー K	ハイボン30 マスチックプライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー
	—	ハイボン50ファイン	ハイボン30ファイン 中塗又は ハイボン30ファイン 中塗U	ハイボン30 マスチックプライマー K	ハイボン30 マスチックプライマー K	ニッペジンキー 8000 メタルグレー

18. 7. 3 亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗り

(13) 亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗りは、表18. 7. 2による。ただし、上塗り塗料の等級は特記による。

表18. 7. 2 亜鉛めっき鋼面耐候性塗料塗り

工 程		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		規格番号	規格名称	種類 又は 等級		
素地ごしらえ		表 1 8. 2. 3によるA種 ただし鋼製建具等はB種				
1	下塗り	JASS 18 M-109	変性エポキシ樹脂 プライマー(変性エポ キシ樹脂プライマー および弱溶剤 変性エポキシ樹脂 プライマー)	—	ハイボン 20 ファイン 塗料用シンナー A 0～10%	0.14
2	研磨紙すり	研磨紙P 1 2 0～2 2 0				
3	中塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐 候性塗料	A 種 中塗り 塗料	ファイン中塗 DP 塗料用シンナー A または SA 0～ 10%	0.14
4	上塗り	JIS K 5659	鋼構造物用耐 候性塗料	A 種 上塗り 塗料	1 級の場合 (ふっ素系) ファイン 4 F セラミック 塗料用シンナー A 0～10%	0.10
					2 級の場合 (シリコン系) ファインシリコンフレッシュ 塗料用シンナー A 0～10%	
					3 級の場合 (ポリウレタン系) ファインウレタン U100 塗料用シンナー A 5～15%	

(注) 1. 工程4まで鉄骨等の製作工場にて行う場合は、工程2は省略する。

2. JASS 18 M-109は、日本建築学会材料規格である。

鋼製建具等の亜鉛めっき鋼面の下塗りは、次による。

見え掛かり部分は、組立後、溶接箇所等を補修し、ワイヤーブラシ、研磨布等で汚れや付着物を十分に除去し、下塗りを行う。また、押縁部分は、組立前の部材のうちに下塗りを行う。

工事現場において取付け後、汚れおよび付着物を除去し、損傷部分は、ワイヤーブラシ、研磨布等で除去する。なお、ディスクサンダー等の強力な電動工具は使用しない。

素地ごしらえの後、表18. 3. 2のB種を1回塗る。

● 上記以外に下記商品も使用可能です。

●上塗り

- デュフロン100フレッシュII (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1 級)
- デュフロン100ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1 級)
- デュフロン100ニューファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 1 級)
- ファイン Si (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 2 級)
- ハイボン50上塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3 級)
- ハイボン50ファイン (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 3 級)

●中塗り

- デュフロン100ファイン中塗 (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)

- デュフロン100ファイン中塗りU (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗りK (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- デュフロン100中塗り (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗り (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マスチック中塗りK (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30マスチック中塗り (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)
- ハイボン30ファイン中塗りU (JIS K 5659 鋼構造物用耐候性塗料 中塗り塗料)

●下塗り

- ハイボン20デクロ (JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー)
- ハイボンファインプライマーII (JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー)
- ハイボン20ZN II (新) (溶融亜鉛めっき面用エポキシ樹脂下塗り塗料 JASS 18 M-109)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り
上塗り1級	—	デュフロン100フレッシュII	デュフロン100中塗りK又は デュフロン100中塗り	ハイボン20デクロ又は ハイボン20ZN II(新)
		デュフロン100ファイン又は デュフロン100ニューファイン	デュフロン100ファイン中塗り又は デュフロン100ファイン中塗りU	ハイボン20ファイン ハイボンファインプライマーII又は ハイボン20ZN II(新)
上塗り2級	—	ファインSi	ファイン中塗りDP	ハイボン20ファイン又は ハイボンファインプライマーII・ハイボン20ZN II(新)
上塗り3級	—	ハイボン50上塗り	ハイボン30マスチック中塗りK 又はハイボン30マスチック中塗り	ハイボン20デクロ又は ハイボン20ZN II(新)
		ハイボン50ファイン	ハイボン30ファイン中塗り又は ハイボン30ファイン中塗りU	ハイボン20ファイン ハイボンファインプライマーII又は ハイボン20ZN II(新)

18. 7. 4 コンクリート面及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗り

コンクリート面及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗りは、表18. 7. 3により、種別は特記による。

表18. 7. 3 コンクリート及び押出成形セメント板面耐候性塗料塗り

工 程		種別			塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A 種	B 種	C 種	規格 番号	規格名称	種類		
素地 ごしらえ		○(注)			表 1 8 . 2 . 6 による A 種、ただし押出成形セメント板面は B 種				
1	下塗り	○	○	○	JASS 18 M-201	反 応 形 合 成 樹 脂 シ ー ラ ー お よ び 弱 溶 剤 系 反 応 形 合 成 樹 脂 シ ー ラ ー	—	ニッペ°ファイン浸透シーラー (透明) 無希釈	0.08
2	中塗り	○	—	—	JASS 18 M-405	常 温 乾 燥 形 ふ っ 素 樹 脂 塗 料 用 中 塗 り (常 温 乾 燥 形 ふ っ 素 樹 脂 塗 料 中 塗 り お よ び 弱 溶 剤 系 常 温 乾 燥 形 ふ っ 素 樹 脂 塗 料 用 中 塗 り)	—	ファイン 4F セラミック 塗料用シンナー A 0～10%	0.14
		—	○	—	JASS 18 M-404	アクリルシリコン 樹 脂 塗 料 用 中 塗 り (ア ク リ ル シ リ コ ン 樹 脂 塗 料 用 中 塗 り お よ び 弱 溶 剤 系 ア ク リ ル シ リ コ ン 樹 脂 塗 料 用 中 塗 り)	—	ニッペ°ファインシリコンフレッシュ 塗料用シンナー A 0～10%	0.14

		—	—	○	JASS 18 M-403	2液形 ^ポ リウレタンエナメル用中塗り(2液形 ^ポ リウレタンエナメル用中塗りおよび弱溶剤系2液形 ^ポ リウレタンエナメル用中塗り)	—	ニッペ [®] ファインウレタン U100 塗料用シンナー A 5~10%	0.14
3	上塗り	○	—	—	JIS K 5658	建築用耐候性上塗り塗料	1級 (主要原料 ふっ素樹脂)	ファイン 4Fセラムック 塗料用シンナー A 0~10%	0.10
		—	○	—			2級 (主要原料 シリコン樹脂)	ニッペ [®] ファインシリコンフレッシュ 塗料用シンナー A 0~10%	
		—	—	○			3級 (主要原料 ^ポ リウレタン樹脂)	ニッペ [®] ファインウレタン U100 塗料用シンナー A 5~15%	

(注) 1. 素地ごしらの種別は、塗料その他の欄による。

2. JASS 18 M-201、M-403、M-404 及び M-405 は、日本建築学会材料規格である。

● 上記以外に下記商品も使用可能です。

- デュフロン4 F IIフレッシュ (JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 1級 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。) (中塗りには「デュフロン4 F II中塗り」 (JASS 18 M-405) をご使用ください。)
- ニッペ[®]ファイン Si (JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 2級 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。) (JASS 18 M-404 弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料用中塗り)
- ニッペ[®]浸透性シーラー (新) (JASS 18 M-201 反応形合成樹脂シーラー)

組合せ例

工程 仕上種類	種別	上塗り	中塗り	下塗り
ふっ素樹脂 (1級)	A種	デュフロン 4F IIフレッシュ	デュフロン 4F II中塗り	ニッペ [®] 浸透性シーラー (新)
シリコン系 (2級)	B種	ニッペ [®] ファイン Si	ニッペ [®] ファイン Si	ニッペ [®] ファイン浸透シーラー(透明)

8節 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G)

18.8.1 一般事項

この節は、コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等並びに屋内の木部、鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面のつや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りに適用する。

18.8.2 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、表18.8.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。
なお、天井面等の見上げ部分は、工程3を省略する。

表18.8.1 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等
つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程		種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A種	B種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ		○(注)1		1 8. 2. 5、1 8. 2. 6又は1 8. 2. 7による。			
1	下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルションシーラー	ニッパ [®] 水性透明シーラー 水道水 100%	0.07
2	中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルション [®] イント	水性ケニスグ [®] Ⅱ 水道水 0～10%	0.10
3	研磨紙すり	○	—	研磨紙P 2 2 0～2 4 0			
4	中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルション [®] イント	水性ケニスグ [®] Ⅱ 水道水 0～10%	0.10
5	上塗り	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルション [®] イント	水性ケニスグ [®] Ⅱ 水道水 0～10%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

3. コンクリート面の素地ごしらえは、表18.2.5による。

* ドアノブまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

●JIS K5663 合成樹脂エマルジョンシーラーでは下記商品も使用可能です。

- ・ ニッペ[®] 水性ホワイトシーラー
- ・ ニッペ[®] 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)
- ・ ニッペ[®] 水性シミ止めシーラーⅡ

18.8.3 木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、表18.8.2による。ただし、多孔質広葉樹の場合を除く。

表18.8.2 木部つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程		塗料その他			商 品 名	塗付量 (kg/m ²)
		規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ		1 8 . 2 . 2 による。				
1	下塗り	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン シーラー	—	※ニッパ° 水性ウッドベースⅡ 水道水 0～10%	0.07
2	パテかい	JIS K 5669	合成樹脂エマルジョン パテ	耐水形	Hi ビニレックス耐水パテ（仕上）	—
3	研磨紙すり	研磨紙P 1 2 0～2 2 0				
4	中塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂 エマルジョンペイント	—	水性ケンエースグロ 水道水 0～10%	0.10
5	上塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂 エマルジョンペイント	—	水性ケンエースグロ 水道水 0～10%	0.10

- （注） 1. 下塗りは、塗料を素地によくなじませるように塗る。木口部分は、特に丁寧に行う。
 2. 下塗りに用いる合成樹脂エマルジョンシーラーは、上塗り塗料の製造所の指定する水性塗料とする。

- * ドアノブまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。
- * Hi ビニレックス耐水パテ（仕上）は、屋外及び水回りには使用しないでください。

※「ニッパ° 水性ウッドベースⅡ」は、JIS K 5663 合成樹脂エマルジョンシーラーの相当品です。（社内試験で該当の性能を満たしております。）

18.8.4 鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、表18.8.3により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.8.3 鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程		種別		塗料その他		商 品 名	塗付量 (kg/㎡)
		A 種	B 種	規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り		○(注)		1 8 . 3 . 3 (1) による。			
1	中塗り (1回目)	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	水性ケニスグロ 水道水 0～10%	0.10
2	研磨紙 ずり	○	—	研磨紙 P 2 2 0 ～ 2 4 0			
3	中塗り (2回目)	○	—	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	水性ケニスグロ 水道水 0～10%	0.10
4	上塗り	○	○	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	水性ケニスグロ 水道水 0～10%	0.10

(注) 錆止め塗料塗りの種別は、塗料その他の欄による。

※ドアノブのまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

18.8.5 亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

屋内の亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りは、表18.8.4による。

表18.8.4 亜鉛めっき鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り

工 程		塗料その他		商 品 名	塗付量 (kg/㎡)
		規格番号	規格名称		
錆止め塗料塗り		1 8 . 3 . 3 (3) による。			
1	中塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	水性ケイ素樹脂 水道水 0～10%	0.10
2	上塗り	JIS K 5660	つや有合成樹脂エマルジョンペイント	水性ケイ素樹脂 水道水 0～10%	0.10

※ドアノブのまわりなど頻繁に手で触れる箇所には、プレートを貼るなどの処置が必要になる場合がありますのでご注意ください。

9節 合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)

18.9.1 一般事項

この節は、コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面等の合成樹脂エマルションペイント塗りに適用する。

18.9.2 合成樹脂エマルションペイント塗り

合成樹脂エマルションペイント塗りは、表18.9.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。なお、天井面等の見上げ部分は、工程3を省略する。

表18.9.1 合成樹脂エマルションペイント塗り

工 程		種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ		○(注)1		１８．２．５、１８．２．６又は１８．２．７による。				
1	下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン シーラー	—	ニッパ [®] 水性透明シーラー 水道水 100%	0.07
2	中塗り (１回目)	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	１種	エコフラット 70 水道水 5～15%	0.10
3	研磨紙ずり	○	—	研磨紙P 2 2 0～2 4 0				
4	中塗り (２回目)	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	１種	エコフラット 70 水道水 5～15%	0.10
5	上塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョン ペイント	１種	エコフラット 70 水道水 5～15%	0.10

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。

3. コンクリート面の素地ごしらえは、表18.2.5による。

●JIS K5663 合成樹脂エマルションシーラーでは下記商品も使用可能です。

- ・ ニッパ[®] 水性ホワイトシーラー
- ・ ニッパ[®] 水性カチオンシーラー (透明・ホワイト)
- ・ ニッパ[®] 水性シミ止めシーラーII

● JIS K5663 合成樹脂エマルションペイント 1種では下記商品も使用可能です。

- ・ Hi ビニレックスエコ70
- ・ ニッパ[®] 水性ケンエース
- ・ ニッパ[®] 水性ケンエースグロス (3分艶有り・5分艶有り)
- ・ オーデコートGエコ (艶消し・3分艶有り・5分艶有り)

エコフラット100 (JIS K 5663 合成樹脂エマルションペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)

ニッパ[®] オーデファインアクト (JIS K 5663 合成樹脂エマルションペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)

清潔 WALL (JIS K 5663 合成樹脂エマルションペイント 1種 相当) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)*下塗りには「清潔 WALL 下塗」を塗装してください。

Hi ビニフレッシュセラ (JIS K 5663 合成樹脂エマルションペイント 1種 相当 汚染除去性内装用シリコンエマルション系塗料) (社内試験で該当規格の性能を満たしています。)

10節 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T)

18.10.1 一般事項

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等の合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りに適用する。

18.10.2 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り

コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りは、表18.10.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.10.1 コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り

工 程		種別		塗料その他			商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A種	B種	規格番号	規格名称	種類		
素地ごしらえ		○(注)1		1 8 . 2 . 5、1 8 . 2 . 6 又は1 8 . 2 . 7 による。				
1	下塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	—	0.07
2	中塗り	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンペイント	1 種	—	0.10
3	上塗り	○	○	JIS K 5668	合成樹脂エマルジョン模様塗料	2 種	—	0.60
4	仕上げ塗り	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンペイント	1 種	—	0.14

- (注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。
 2. 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。
 3. コンクリート面の素地ごしらえは、表18.2.5による。

11節 ウレタン樹脂ワニス (UC)

18.11.1 一般事項

この節は、木部のウレタン樹脂ワニス塗りに適用する。

18.11.2 ウレタン樹脂ワニス塗り

ウレタン樹脂ワニス塗りは表18.11.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.11.1 ウレタン樹脂ワニス塗り

工 程		種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/㎡)	
		A 種	B 種	規格番号	規格名称		1 液形	2 液形
素地ごしらえ		○(注)1		１８．２．２による。				
1	下塗り	○	○	JASS 18 M-301	1 液形油変性 ^ホ リウ レタンワニス	—	0.05	—
				JASS 18 M-502	2 液形 ^ホ リウレタンワニス	ニッペ [°] ファインウレタン U100 木部用クラー 塗料用シンナー A 5～10%	—	0.06
2	研磨紙ずり	○	○	研磨紙P 2 4 0～3 2 0				
3	中塗り	○	—	JASS 18 M-301	1 液形油変性 ^ホ リウ レタンワニス	—	0.05	—
				JASS 18 M-502	2 液形 ^ホ リウレタンワニス	ニッペ [°] ファインウレタン U100 木部用クラー 塗料用シンナー A 5～10%	—	0.06
4	研磨紙ずり	○	—	研磨紙P 2 4 0～3 2 0				
5	上塗り	○	○	JASS 18 M-301	1 液形油変性 ^ホ リウ レタンワニス	—	0.05	—
				JASS 18 M-502	2 液形 ^ホ リウレタンワニス	ニッペ [°] ファインウレタン U100 木部用クラー 塗料用シンナー A 5～10%	—	0.06

(注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

2. JASS 18 M-301 及び M-502 は、日本建築学会材料規格である。

※ ニッパ[°] ファインウレタン U100 木部用クリヤーは床・廊下・美術工芸品・床柱・カウンター・陳列棚などには使用しないでください。室内塗装される場合は乾燥が遅くなりますので、注意してご使用ください。

12節 オイルステイン塗り (OS)

18.12.1 一般事項

この節は、木部のオイルステイン塗りに適用する。

18.12.2 オイルステイン塗り

オイルステイン塗りは、表18.12.1により、塗料は特記による。

表18.12.1 オイルステイン塗り

工 程		塗料その他	商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
素地ごしらえ		表18.2.1木部の素地ごしらえによるB種		
1	1回目塗り	オイルステイン	—	0.03
2	ふき取り	全面白木綿布片でふき取る。		
3	2回目塗り	オイルステイン	—	0.03
4	ふき取り	全面白木綿布片でふき取る		

13節 木材保護塗料塗り (WP)

18.13.1 一般事項

この節は、屋外の木部の木材保護塗料塗りに適用する。

18.13.2 木材保護塗料塗り

木材保護塗料塗りは、表18.13.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.13.1 木材保護塗料塗り

工 程		種別		塗料その他		商 品 名	塗付け量 (kg/m ²)
		A 種	B 種	規格番号	規格名称		
素地ごしらえ		○ (注)1		1 8 . 2 . 2による。			
1	下塗り	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.06
2	上塗り (1回目)	○	○	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.06
3	上塗り (2回目)	○	—	JASS 18 M-307	木材保護塗料	—	0.04

- (注) 1. 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。
2. JASS 18 M-307 は、日本建築学会材料規格である。